

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. 新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）

(1) 新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのため授業改善を進める。

ア 校内の『授業力改善委員会』等による持続的な授業改善を推進する。

※ 「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和6年度までに85%以上にする（R1 77%、R2 78%、R3 84%）。

※ 生徒の授業アンケート結果で3.35以上を維持する（R1 1回目①3.25、2回目②3.24、R2 ①3.32、②3.33、R3 ①3.37、②3.38）。

イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。

※ 令和6年度まで90%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施することを維持する（R1 81%、R2 93%、R3 92%）。

※ 令和6年度まで90%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できることを維持する（R1 83%、R2 91%、R3 91%）。

ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。

※ 「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を令和6年度に60%以上にする（R1 49%、R2 53%、R3 56%）。

※ 「授業の予習、復習は『できていない』」を令和6年度に5%以下にする（R1 9%、R2 8%、R3 9%）。

エ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムと新観点別授業評価を、令和4年度新入生から学年進行で全教員が安定して実施できるようにする。

2. 新型コロナウイルス併存下でのICTを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、GIGAスクール構想への対応

(1) ICT機能を活用して、学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。

ア 校内に設置した「ICT、GIGAスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等の学習補完を充実する。

イ GIGAスクール構想における1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのICT活用推進を図る。

3. コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現

(1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。

ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認め合い共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。

※ 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和6年度まで90%以上で維持する（R1 84%、R2 87%、R3 90%）。

※ 「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答を令和6年度まで90%以上で維持する（R1 77%、R2 81%、R3 90%）。

(2) コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。

ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直しをしていく。

※ 体育祭や文化祭、修学旅行等について、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものになるよう必要な見直しや修正、変更を検討、実施する。

※ 「部活動は活発である」への生徒の肯定的回答を令和6年度まで90%以上で維持する（R1 94%、R2 93%、R3 94%）。

※ 「部活動と学習の両立ができていく」の生徒肯定回答を令和6年度には80%以上をめざす（R1 69%、R2 73%、R3 77%）。

イ 生徒に、コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。

※ コロナ併存社会で可能な、進路講演会やイベントを行うとともに、国公立大学や同志社大学出身の外部講師による講演等の計画、実施を模索する。

※ 「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和6年度まで85%以上で維持する（R1 78%、R2 80%、R3 85%）。

※ 「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定回答を令和6年度まで90%以上で維持する（R1 86%、R2 89%、R3 90%）。

ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。

※ 学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。

エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。

※ 進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を測る。

※ 令和6年度までに、大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（R1 77%、R2 70%、R3 74%）にするとともに、そのうち5教科型の出願者を50%以上（R1 52%、R2 32%、R3 29%）にすることをめざす。

※ 令和6年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の30%以上（R1 18%、R2 12%、R3 18%）にして、現役合格者数を卒業見込み者数の10%以上（R1 4%、R2 2%、R3 7%）をめざす。

※ 令和6年度までに国公立大学と同志社大学の合計の現役進学者を卒業生数の15%以上にする（R1 8%、R2 8%、R3 15%）。

※ 令和6年度まで国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業見込み者数の50%以上を維持する。（R1 49%（175名/354名）、R2 60%（211名/353名）、R3 72%（225名/313名））

4. 新型コロナウイルス併存下における教職員研修での教職員の資質の向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減

(1) 新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。

ア 新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。

※ 「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率を令和6年度までに90%にする（R1 67%、R2 72%、R3 88%）。

※ 「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」の生徒肯定率を令和6年度までに85%以上にする（R1年度76%、R2年度78%、R3 82%）。

(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減

ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月 実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で76%⇒77%⇒78%⇒84%⇒82%となり、前年度より2ポイント減少したが、ほぼ昨年度並である。このうち「よくあてはまる」の回答は15%⇒16%⇒19%⇒24%⇒25%と毎年上昇しており、5年間で10ポイント改善した。5年前から3年前にかけて、ほとんどの教室に電子黒板が設置され、昨年に生徒1人1台端末も配付され、生徒がわかりやすい授業が増えていると考えられる。 ＜参考＞生徒の授業アンケート結果は、昨年度①3.37、②3.38、今年度①3.45、②3.47と着実に伸びている。電子黒板を使って視覚に訴える授業が多く、わかりやすくなっていることがその背景にあると考えられる。 ・「ICT機器等を活用した授業を行っている」に肯定的回答をした教員は、最近5年間で80%⇒81%⇒93%⇒92%⇒91%となり、高止まりしている。このうち「よくあてはまる」の回答は、最近5年間で31%⇒36%⇒43%⇒62%⇒60%とほぼ昨年度並である。昨年度、今年度とICT機器操作の研修を繰り返している、多くの教員が習得、ICTを活用した授業をする教員が増えたからと考える。 ・「ICT機器やネットワークを活用した授業が多い」への生徒の肯定的回答も最近5年間で81%⇒83%⇒91%⇒91%⇒88%となり、前年度より3ポイント減少したが、ほぼ昨年度並である。このうち「よくあてはまる」の回答は、最近5年間で29%⇒36%⇒47%⇒53%⇒53%で昨年度と同じである。本校のICT環境がほぼ整っていることを示すものとなっている。 ・「授業の予習、復習が『できている』、『まずできている』」を合計した生徒の回答は、47%⇒49%⇒53%⇒56%⇒52%となり、前年度より4ポイント減少した。『できていない』と回答する生徒は、10%⇒9%⇒8%⇒9%⇒9%とほぼ横ばいである。引き続き働きかけを行いたい。 ・「授業だけで理解できない場合等の、指導が適切に行われている」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で56%⇒61%⇒64%⇒72%⇒68%と前年度より4ポイント減少（1年生78%⇒70%、2年生69%⇒65%、3年生73%⇒70%）した。ICTを活用するなどの工夫をしつつ、引き続き注視していく。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校は楽しい」への生徒の肯定的回答は、86%（1年生88%、2年生92%、3年生78%）で前年度より5ポイント減少したが、「よくあてはまる」の回答は53%と昨年度より2ポイントの減少に留まっている。「よくあてはまる」の回答が学年によってばらつき（1年生55%、2年生62%、3年生43%）があり、全体的に3年生が低く、コロナで制約ばかりの3年間であったことが、影響しているのではないかと考える。 ・「体育祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は89%（1年生94%、2年生93%、3年生83%）で、「文化祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は87%（1年生90%、2年生91%、3年生82%）であった。全体的に1・2年生が高い。 ・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で82%⇒83%⇒84%⇒87%⇒87%であり、このうち「よくあてはまる」は27%⇒25%⇒32%⇒41%⇒41%となっている。 ・「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応できている」への教員の肯定的回答は、最近5年間で73%⇒62%⇒77%⇒90%⇒91%と昨年度より高水準を維持している。1年に2回、生徒に行く「いじめに関するアンケート」などを使いながら、引き続きしっかりとした取り組みをしていく。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答は、最近5年間で80%⇒76%⇒78%⇒82%⇒82%となり、このうち「よくあてはまる」は30%⇒27%⇒32%⇒37%⇒36%とほぼ昨年度並を維持している。 ・「生徒が悩み事を相談できる教育相談体制が整備されている」への教員の肯定的回答は、最近5年間で75%⇒63%⇒68%⇒90%⇒87%と昨年度より高水準を維持。こちらも学校として、大切にしていきたい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は最近5年間で81%⇒78%⇒80%⇒85%⇒78%となり、このうち「よくあてはまる」は27%⇒27%⇒31%⇒34%⇒27%となった。「生徒の10年20年先を見据えた進路指導を行っている」の教員の肯定的回答は最近5年間で63%⇒45%⇒42%⇒70%⇒58%となり、年により差があり、引き続き注力したい。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は最近5年間で85%⇒86%⇒89%⇒90%⇒88%となり、このうち「よくあてはまる」は32%⇒34%⇒41%⇒49%⇒43%であった。進路指導部や学年団の教員とともに、学校として多くの機会を持ち、しっかり取り組んでいきたい。 ・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への生徒の肯定的回答は最近5年間で72%⇒72%⇒75%⇒82%⇒81%（1年生単独では90%）となり、このうち「よくあてはまる」は18%⇒21%⇒25%⇒33%⇒34%（1年生単独では44%）となった。引き続き多様な機会の提供に努めたい。 ・「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は最近5年間で94%⇒94%⇒93%⇒94%⇒92%であり、このうち「よくあてはまる」は61%⇒60%⇒63%⇒66%⇒68%と、コロナ以前から高水準を維持している。 ・「部活動と学習の両立ができていく」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で62%⇒69%⇒73%⇒77%⇒74%となり、このうち「よくあてはまる」は20%⇒22%⇒29%⇒33%⇒33%と昨年度と同じであった。同じ設問への保護者の肯定的回答は、最近5年間で62%⇒65%⇒64%⇒69%⇒70%で、このうち「よくあてはまる」は22%⇒22%⇒22%⇒25%⇒25%であった。コロナにより、数日間活動停止になった部活動がいくつかあったものの、好成績を収めた部活動も結構あった。生徒や保護者が学習との両立に困難を感じないように、効率的で有効な部活動としていきたい。 ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答は最近5年間で82%⇒84%⇒87%⇒90%⇒88%となり、このうち「よくあてはまる」は29%⇒30%⇒37%⇒46%⇒47%で、ほぼ昨年度並である。 	<p>【第1回】令和4年7月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度、時間外勤務が増加しているが、実態を把握されていることがあれば教えてほしい。 ⇒令和2年度はコロナ禍の影響で4～6月の休校や部活動禁止時期があったが、昨年度はそういったことがなく、時間外が増加したと考えている。 ○国公立大学の進学率としては、どのように考えられておられるのか？ ⇒昨年度行われた入試に関して、ここ数年のうちでは多くの生徒が国公立に進学してくれたと感じているが、これに満足することなく、さらに増やしていきたい。 ○以前と比べて、私立大学が努力をしているため、魅力ある学校が分散化している。もちろん大阪公立大学を含め国公立大学も努力しているが、生徒にとって魅力があるということが大きな点である。進学実績を見て、よく健闘していると感じる。大学入試の5教科型は負荷がかかるが、最後まで複数の教科を頑張れる生徒を育成することが大切である。 ○現役生徒を3年間でそこまで育てるのは大変である ⇒幅広く勉強した方が、将来に学習した知識や教養は活かせると思っている。 ○リベラルアーツという考え方であり、生きていくうえで基盤となるものである。偏った教科を学習するのではなく、学習する機会を活かせるような仕組みづくりをしていただければありがたい。 ○本校を卒業した姉の時と比べると夏季講習に力を入れてくれていると感じる。 ○どの時期から大学に向けての勉強を始めるのか？ ⇒1年生の時から予習復習をしっかりするよう生徒にも保護者にも伝えている。30分でもいいから毎日机に向かい、まずは勉強の習慣をつけさせることが大切だと考える。そうすると2・3年になった時に、受験勉強にシフトししやすい。 ○理系の生徒数はどれくらいいるのか？ ⇒例年、2クラス弱程度である。 ○目標を数値化しておられてわかりやすい。先生方も生徒の皆さんも達成すれば満足感が得られる。数値目標はどの学校も挙げているのか？ ⇒数値目標を挙げることを、府から推奨されている。 ○今年度の1年生から「観点別評価」が導入され、先生方は工夫されていると思うが。 ⇒職員室を見ていると、初めての試みということもあり、評価一つをとっても議論を重ねている。前向きに話し合っていることが多いように感じている。 ○今までと枠組みが変わってきているので、苦勞されていることと思う。 ○目標にある「維持する」という表現。大切なところを下げないという見方ができるこの表現はよい。国公立大学の受験に向けて、私立志望の子を引っ張っていくことをされている。昔と比べて私立は、魅力をよくアピールしており、国公立と学費の差においても小さくなっている。そういうことを踏まえながら、国公立にトライされていることがすごい。国公立大学の魅力と、5教科で幅広い学力を求めるという柱を伝えてもらいたい。 <p>【第2回】令和4年12月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケートで上位を占めているのは20～30代の先生方で、前回質問した時は「言葉の共通性」やICTの使い方がうまい等のアドバンテージがあるとの事だったが、40～60代の先生方の経験値を上回るほどのアドバンテージがあるのか？ ⇒若い先生方は電子機器の使用に非常に慣れておられ、その点が50代の人と大きく違うところと思う。若い先生は、本校の全教室に設置されている電子黒板を使って視覚に訴える授業をよくされる。ベテランの先生方もそれぞれ持ち味はあるが、生徒たち自身もスマホ世代なので電子機器を利用した授業の方が理解しやすいという意識がある。それに触発されて50～60代の先生もご自身で電子機器を勉強されて利用されている方が結構いらっしゃる。 ○平成29年度には60代のアンケート数値が悪かったが、どんどん向上している。 ⇒大半の方が電子黒板を使って授業をされている。 ○令和元年度からとても数値が上昇している。本校の取組みが実を結んでいる。このまま続けてほしい。 ⇒ICT機器の研修を年に数回実施する。一昨日も研修を実施した。ICT機器の扱い方を実際に体験してもらい「これを使えばこんなことができますよ」という研修であったが、年齢に関係なく年配の先生も若い先生も参加されている。皆さん随分習熟されたという気がしている。 ○教科横断的という言葉があるが、教科に関わらず優れた授業を校内で参観するような研修を意識的に設けられているのか？ ⇒意識的かというと、そうではない。ただ、経験の浅い教員の研修時に多くの先生方が見学に行かれているが、学校全体としては積極的にできていない。 ○どうしても狭い世界に閉じこもってしまうと、なかなか次の変化や改善が起きにくいと認識している。そういう機会を教科横断的にしていただきたい。年齢層でのばらつきが少なくなっている。各先生方の力量が確実にアップしている。 ○職員の超過勤務について、トータルで見ると一人当たりの前年比86.0%だが、面談対象は特定の先生に集中しているのか？ ⇒お見込みのとおり。ある程度同じ先生である。 ○それにしても月100時間を超えるのは、大変である。 ⇒部活動指導に熱心な先生は、どうしても時間外が増える傾向にある。 ○超過勤務を軽減すればいいというものではなく、結果がしっかりと伴う仕組みづくり組織づくりをお願いする。 <p>【第3回】令和5年2月21日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめの状況」はどのような感じか？ ⇒年2回のアンケートを実施しているが、訴えは軽微なものが多い。 ○具体的には、どのような対応をしているのか？ ⇒アンケートに記入した生徒に対して、教員が複数名で聞き取りを行う。生徒の思いや希望を聞いた上でその生徒が望む対応を行う。 ○生徒どうしの友人関係の問題などでSNSによるいじめなどの訴えはないのか？ ⇒軽微なものが時折あるものの対応できている。 ○そのような事案があった時、スクールカウンセラーにつなぐなどの仕組みはできているのか。 ⇒その通り。 ○校長の自己診断の説明の中で「高止まり」という言葉が5～6回出てきた。令和5年度は評価指標を変えていくとのこと。これまで「よくあてはまる」「あてはまる」を肯定的回答としてみていたが、その中でも第一評価である「よくあてはまる」をいかに増やしていくかが非常に重要になってくる。指標を変えた中で、第

府立牧野高等学校

- ・「牧野高校は人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答は最近5年間で82%⇒87%⇒86%⇒86%⇒89%で、このうち「よくあてはまる」は20%⇒24%⇒23%⇒25%⇒24%とほぼ昨年度並である。
- ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答は、最近5年間で85%⇒77%⇒81%⇒90%⇒84%であったが、このうち「よくあてはまる」は22%⇒17%⇒23%⇒34%⇒42%と上昇している。
- ・「教職員間の十分な相互理解に基づいて教育活動が行われている」への教員の肯定的回答は最近5年間で48%⇒46%⇒65%⇒78%⇒73%であったが、このうち「よくあてはまる」は最近5年間で4%⇒9%⇒13%⇒20%⇒22%と上昇している。
- ・「教育活動全般について生徒や保護者の期待によく応えている」への教員の肯定的回答は最近5年間で82%⇒72%⇒77%⇒92%⇒89%であったが、このうち「よくあてはまる」は10%⇒12%⇒19%⇒32%⇒33%と上昇している。
- ・「牧野高校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」への教員の肯定的回答は、導入以来5年たち69%⇒67%⇒74%⇒88%⇒87%で、このうち「よくあてはまる」は16%⇒16%⇒35%⇒38%⇒44%と上昇している。

- 一評価「よくあてはまる」がどこまで伸びるか期待している。
- 授業アンケートで、一番着目しておきたいのは、「予習・復習などの家庭学習」がどの程度しっかりと意識しているのかということ。それと「授業への興味関心」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の項目において、相関関係ができていれば「自立した学習者」が育っていると考えられる。興味関心を持って自ら計画的に学習することができる「自己管理学習」が生徒の中に定着してくるのであれば、授業に対する満足度や年代を問わずいろんな先生方の授業の良いところを吸収できる。
- ⇒学校教育自己診断の最後の質問項目に学校授業以外の平均学習時間を表している。これが先ほどの質問の答えに最も近いのではないかと思う。
- 学校平均で、授業以外の学習時間が2時間以上と回答している生徒が40%程度いるということか？
- ⇒その通り。
- 学習習慣がしっかり定着しているという好ましい結果が出ている。
- ⇒学年別では3年生の勉強時間が一番長いことが顕著である。
- 時間外勤務について改善されてきているが、府の「合同部活動」という仕組みにおいて、本校ではどのように進めていくのか。
- ⇒本校は単独実施校であり、他校とのペアリングは実施しない。
- 時間外は減っているが、部活を除いて、業務量は変わらないと思う。どのような工夫をしているのか。
- ⇒部活動については、一部のクラブで部活動指導員を導入して対応。先生方の仕事のマネジメントが上手だと思うが、ワークライフバランスを意識されているのではないかと感じる。
- 委員に質問するが、中学校での超過勤務はどんな感じか？
- 中学校では、部活動指導による超過勤務の増加よりは、保護者対応や問題行動があった時に学校全体の超過超過勤務が増える傾向にある。年度によっても大きく変わる。超過勤務の数値を示すことが増えたので、年々、何も業務がない時は早く帰ろうと言いやすい雰囲気が出てきている。
- 授業アンケート結果について、以前は教科間や年代別で差が見られたが、差がなくなってきた。これは全ての先生方が研修などによって授業改善をされた結果であろう。数値が上がりつつ差がなくなってきたのが素晴らしい。
- おっしゃる通りで取り組みの成果が出てきている。
- 知り合いの大学1年生が大学を辞めると聞いた。「やりたいことが見つからないまま大学に進学したが、やっとなりたいことが見つかった」とのこと。大学を辞めることがもったいないという気持ちとやりたいことが見つかってよかったという気持ちが半々。18歳で自分の進むべき道が見える人はごくわずかであり、高校時代は、家庭との連携を含め夢や目標を見つける本当に大切な3年間であると感じた。牧野高校の生徒がしっかり育っていくのを楽しみにしている。
- 5月からコロナが5類になることをうけ、学校行事や部活動がコロナ以前に戻ってくるのが大変嬉しいことである。しかし中学校は高校と違い人事異動のスペンが短いので、以前に行った行事のノウハウを知っている教員がいない場合が多い。行事のイメージができないことが多く、平素に戻していく作業が必要であるため手放しで喜べない。中学校も若い先生が多く、高校であれば生徒の知恵を借りることもできるが、中学校では先生に頼ることが大きいので、行事が戻る嬉しさもあるが、そういう悩みも持っている。牧野高校とは近いので、ノウハウがあればご教示いただきたい。
- 自己診断の教職員の質問項目にある「10年20年先を見据えた進路指導」というのは非常に大事なところである。現在、日本の少子化問題が言われているが、20年先は人口の関係で他国のGDPなどに後れをとってしまう。発展途上国の1国以下になってしまう。そういう状況の中で「自分はどのように生きていくのか」という広い視点で進路指導を行うとともに、「どのような力をつけなくてはいけないのか」というところもしっかり教育していただければありがたい。今の大学生は「自分で選択することができない」と言われている。例えば、経済力があっても大学の留学プログラムのうち提示されて3つから自己選択ができない。そういう現状を目の当たりにしていると先ほどの大学を辞められた方はすごい決心をされたと思う。これまでの小中高を含めて自分が決定していく機会がなかなか与えられなかった環境で育っている子どもが多いように感じる。目標値が高止まりしている牧野高校の学校評価の在り方を次のモーメントやステップに上げていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R3年度値】	自己評価
1. 新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善	(1) 「確かな学力」の育成と授業改善 ア 『授業力改善委員会』による持続的な授業改善の推進 イ ICTを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの定着	(1) 新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそのため授業改善を進める。 ア 『授業力改善委員会』等で持続的な授業改善を推進する。 イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTと1人1台端末を活用した授業等の実施機会を拡大、推進する。 ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。 エ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムと新観点別授業評価を、令和4年度新入生から学年進行で安定して実施できるようにする。	(1) ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を85%以上にする【84%】。 ・生徒の授業アンケート結果で3.35以上を維持する【3.38】。 イ・ICTと1人1台端末を活用する授業を行う教員が90%以上を維持する【92%】。 ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を57%以上に【56%】、『できていない』を8%以下にする【9%】。 エ・新観点別授業評価を新入生で100%完全実施し、不都合のないことを確認する。	(1) ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は82%になった。最近5年間では76%⇒77%⇒78%⇒84%⇒82%ではほぼ横ばい、うち「よくあてはまる」が15%⇒16%⇒19%⇒24%⇒25%と毎年上昇している。(○) 数値目標より3ポイント低い、「よくあてはまる」が1ポイント上昇、授業アンケート結果も踏まえ、総合的に判断し、○とした。 ・生徒の授業アンケート結果は、1回目が3.45、2回目が3.47であった。(◎) イ・ICTを活用する授業を実施する教員は、91%であった。このうち「よくあてはまる」が、62%⇒60%と2ポイント減少した。(生徒は53%⇒53%) (○) ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」は52%であった。『できていない』は9%であった。(△) エ・新観点別授業評価を1年生で完全実施した。(○)
2. ICT活用授業推進とGIGAスクール構想対応	(1) コロナ感染者等の学習補完とGIGAスクール推進 ア コロナ感染者等学習補完 イ GIGAスクール構想推進	(1) ICT機能活用で学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。 ア ICT機能を活用して学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を充実する。 イ 1人1台端末の導入に対応し、校内のハード(電子黒板との連携)、ソフト(教員研修)両面でのICT活用推進を図る。	(1) ア・ICTと1人1台端末を活用する授業が行われてることを実感する生徒が90%以上を維持する【91%】。 イ・1人1台端末導入に対応した授業の校内教員研修を2回以上実施する【6回】。	(1) ア・ICTと1人1台端末を活用する授業が行われてることを実感する生徒は88%だった。このうち「よくあてはまる」は53%で昨年度と同じであった。(△) イ・1人1台端末導入に対応した授業の校内教員研修を3回実施した(全体研修2回、少人数研修1回)。全教員がグループウェアやフォーム作成ツールの機能について学習した。(○)

府立牧野高等学校

<p>3. コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かであぐましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現</p>	<p>(1) 多様性、共生の意識醸成 ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者の人権意識醸成の機会を作っていく (2) 生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを持続しつつコロナ下での行事等見直し イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実 ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の3要素の養成 エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望の進路実現させるための進路指導体制の充実</p>	<p>(1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。 ア コロナ偏見を許さず、多様性を認め合い共生するための人権教育、人権意識醸成の機会を生徒は各学年で年間2回以上、教職員も年間2回以上、保護者は年間1回以上行うようにする。 (2) コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。 ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直しをしていく。 イ コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。 ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素(①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度)を養う。 エ 入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて、生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を90%以上で維持する【90%】。 ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答90%以上を維持する【90%】。 ・人権教育を生徒は各学年で年2回、教職員も年2回、保護者PTAは年1回行う。 (2) ア・コロナ併存社会に対応して体育祭や文化祭は無観客平日開催にする。 ・「部活動は活発である」の生徒肯定回答率で90%以上を維持する【94%】。 ・「部活動と学習の両立ができていける」への生徒の肯定回答を78%以上をめざす【77%】。 イ・進路に関する講演会等を各学年で年2回以上実施する【2回】。 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒肯定率を86%以上にする【85%】。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒肯定率90%以上を維持する【90%】。 ウ・「総合的な探究の時間」で、「枚方市長への提言」を3年連続で行う。 エ・定期的に全国比較での模試を行い学習の定着度や到達度を計測して向上させる。 ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上【74%】、内5教科型の出願者を50%以上【29%】にする。 ・国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の20%以上【18%】、そのうち現役合格者数を卒業見込み者数の5%以上【7%】にする。 ・国公立大学と同志社大学の現役進学者を卒業生数の12%以上にする【15%】。 ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者を卒業生数の50%以上にする【72%】。</p>	<p>(1) ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答は88%、(△) ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答は84%だった。(△) ・1年生は多文化共生、同和問題、アニメ「めぐみ」鑑賞の3回、2年生は在日マイノリティ問題、同和問題の2回、3年生は在日マイノリティ問題、面接時等の人権、18歳成年の3回の学習を行った。教職員は同和問題とLGBTに係る研修を実施した。保護者PTAはコロナ感染状況を鑑み実施しなかった。(○) (2) ア・体育祭は保護者の観覧可で実施、文化祭は自クラスの演劇だけを鑑賞するという事で3年生の保護者2名を観覧可にして実施した。「体育祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は89%(1年生94%、2年生93%、3年生83%)、「文化祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は87%(1年生90%、2年生91%、3年生82%)だった。(◎) ・「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は92%であった。(○) ・「部活動と学習の両立ができていける」への生徒の肯定的回答は74%であった。(△) イ・外部講師による進路講演会等は1年生は4回、2年生は4回、3年生は2回実施した。(◎) ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答は78%であった(△)。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答は89%だった。(○)数値目標より1ポイント低いが、進路講演会の実施に加え、教育実習生や現在大学1回生の卒業生による体験談を聞くなどの取組みにより、進路や生き方について考えさせる機会を多くとることができ、それらを勘案して、○とした。 ウ・「総合的な探究の時間」で、昨年度の「枚方市長への提言」のうち一つが施策に採用され、再度市長にプレゼンを行った。また、枚方市商業連盟加盟商店連合会と連携し、枚方市内の各商店街の活性化に向けた提言を行った。(○) エ・全国比較できる外部模試を校内実施する形が定着、結果分析説明会も行い、生徒の学習到達度が定期的に測れるようになった。(○) ・大学入学共通テストの出願者は63%(△)で、このうち5教科7科目の出願者は25%であった(△)。 ・国公立大学の現役受験者は卒業見込み者の10%(32名)、現役合格者は6%(18名)となった。(△) ・国公立大学と同志社大学の現役進学者は卒業生の14%となった。(○) ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者は卒業生数の66%だった。(◎)</p>
---	---	---	--	---

府立牧野高等学校

<p>4. 新型コロナウイルス併存下における教職員の長時間勤務の縮減と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減</p>	<p>(1) 教職員の資質向上 ア 相談能力養成のための教職員研修充実</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を縮減する。</p>	<p>(1) 新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。 ア・新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議等にも応用し、会議時間縮減や、新たな部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化等で、超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等も検討する。 ・新たな実行性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務縮減を図る。</p>	<p>(1) 教職員研修の充実 ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率 89%以上をめざす【88%】。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答 83%以上をめざす【82%】。</p> <p>(2) 教職員の長時間勤務縮減 ア・会議のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を縮減するとともに、新たな部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間で、前年度比5%の削減をめざす。【R3:38時間32分】</p>	<p>(1) ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定的回答は87%であった。(○) ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答は82%であった。(○)上記の2つは、数値目標よりそれぞれ2ポイント、1ポイント低い。いじめ対応に係る学校の対応について生徒が肯定的に捉えているといった状況も鑑み、総合的に判断し、○とした。「生徒が悩み事を相談できる教育相談体制が整備されている」への教員の肯定的回答は68%⇒90%⇒87%であった。 ・生徒への「いじめに関するアンケート」の年度内2回の実施と、アンケート結果に対する丁寧な対応で「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、5年間で82%⇒83%⇒84%⇒87%⇒87%と上昇している。</p> <p>(2) ア・運営委員会、職員会議のペーパーレス化による会議時間短縮や電子黒板利用による教材の共有化・効率化も進んだ。ウィズコロナとなり、学校行事、部活動とも通常どおり実施したが、教職員への声掛け、部活動指導員の活用等で、教職員一人あたりの超過勤務時間は前年度比18%削減した(◎)。</p>
---	--	--	--	--